



ぶどう特報#4



2026年5月14日
JA 中野市ぶどう部会
JA 中野市園芸課

梅雨入りを目前に控え、主要病害虫対策を徹底しましょう。
今年の梅雨は降水量が多くなることが予想されており、主要病害の感染が懸念されます。
発病を未然に防ぐため、概ね10日間隔で定期防除を進め、散布死角が発生しないように注意してください。



参考：日曹フラスター液剤 HP ↑

年度	巨峰開花	シャイン開花	特記
平年	6/5	6/11	過去10年平均値(H28~R7)
2025年(R7)	6/9	6/13	平年並み
2026年(R8)	6/1頃	6/5頃	昨年より1週間程度早い見込み

【5月中下旬の散布】

散布時期	展葉7~11枚目時（開花始期まで）		品種名：_____
散布薬剤	水	100ℓ	散布日：__月__日
	展着剤（ハイテンパワー）	10ml	散布量：_____ℓ
	フラスター液剤（新梢展葉7~11枚時・2回）		品種名：_____
	シャインマスカット	50ml	散布日：__月__日
	クイーンルージュ®	50ml	散布量：_____ℓ
種なし巨峰		100ml	品種名：_____
	ナガノパープル・ピオーネ等	125~200ml	散布日：__月__日
	有核巨峰	100ml	散布量：_____ℓ
散布量	*手散布：100~150ℓ/10a *SS散布：300ℓ/10a		
使用目的	着粒増加・新梢伸長抑制		
注意事項	品種により倍率が異なるため、散布前に必ず、登録内容を確認する。 有核巨峰：展着剤ハイテンパワーに代えてアプローチB1500倍を使用する。 弱樹勢の樹や若木は新梢伸長が極端に弱る可能性があるため、散布を控える。		

【5月下旬~6月初旬の定期散布】 *対象：共通

散布時期	開花直前 生育状況を確認して散布		巨峰・パープル等
散布薬剤	水	100ℓ	散布日：__月__日
	展着剤（ハイテンパワー）	10ml	散布量：_____ℓ
	ロブラール水和剤	66g（60日前・3回）	シャイン・ルージュ等
	オーソサイド水和剤80	125g（30日前・3回）	
	トクチオン水和剤	125g（45日前・3回）	
グリーンデイズ 等	100g（※葉面散布剤）	散布日：__月__日	
散布量	400ℓ/10a		散布量：_____ℓ
適用病害虫	黒とう病、晩腐病・灰色かび病・ベと病・褐斑病・コナカイガラムシ類・アザミウマ類		
注意事項	主要害虫対策として、主幹・主枝にも薬液が到達するようにする。 アザミウマ類対策として花穂（軸部）にも薬液が到達するようにする。 ※葉面散布剤については5月初旬のぶどう特報#3の裏面をご確認ください。		

裏面も記載ありますのでご確認ください。

【6月中旬の定期散布】＊対象：共通

散布時期	落花直後 前回防除より 10日後	品種名： _____ 散布日： 6月 _____ 日 散布量： _____ ℓ
散布薬剤	水 100 ℓ グレーシアフロアブル 25 ml (7日前・2回) スイッチ顆粒水和剤 33 g (30日前・2回) ジマンダイセン水和剤 100 g (45日前・2回) ※注意事項①参照 グリーンデイズ 等 100 g ＊葉面散布資材 ※注意事項④参照	
散布量	400 ℓ / 10a	
適用病害虫	ベと病、晩腐病、灰色かび病、 チャノキイロアザミウマ、ブドウサビダニ (ミカンキイロアザミウマ) (コガネムシ類)	
注意事項	①【注意】ジマンダイセン等のマンゼブ成分を含む農薬は、年間の使用回数を2回までとする。 ②【サビ防止対策】落花状況 (花冠の飛び等) を確認して散布する。 ③【果粉溶脱防止】展着剤は、今回から第10回の防除まで使用しない。 ④【果粉溶脱防止】葉面散布剤はブルーム溶脱の恐れがあるため、今回までの混用とする。 ⑤【薬害防止】 高温時の散布は薬害の恐れがあるため、注意する。	

黒とう病に要注意

梅雨期は降雨により黒とう病感染の最もリスクが高まり、花穂や果粒 (幼果) への感染が懸念されます。ついでに、過去に発生があった園地 (部分) や若木の園地は特に注意してください。病斑の早期発見で被害拡大は防げます。

症状の確認 ⇒ 右写真参照

【葉】葉脈上に淡褐色～黒褐色の小斑

病斑はその後拡大し、しだいに中心部に穴が開く

【枝】淡褐色～黒褐色のやや凸凹した (クレーター状) 病斑

降雨により伝染拡大し、葉や新梢のほか花穂・果粒部分になどに病斑が発生する。

一度発生すると翌年以降も発生しやすくなる



《対策》

- ① 防除：10日間隔の定期防除の徹底・降雨前を狙った防除
- ② 新梢管理：薬剤がかかりやすく、風通しの良い環境を作る
- ③ 草刈りの実施：病害の潜伏箇所を減らし、菌密度を下げる
- ④ 昨年発生した場所の確認：昨年の病斑が伝染源となる
- ⑤ 被害の確認：病斑のある枝や葉は切除し、早めに園地外へ



次回特報 6/1 落花直後から 10 日後の防除の定期散布。